

環境コミュニケーション

カシオは、すべてのステークホルダーの皆様との環境コミュニケーションを大切にしています。

八王子技術センターにて小学生見学受け入れ

八王子技術センターにて小学生見学受け入れ 2007年8月よりカシオ計算機八王子技術センターでは、小学生向けの教育プログラムを用意し、小学生の受け入れ教育並びに出前授業を始め、北海道の3校の他、都内17校の児童に学習の機会を提供しました。会場となる八王子技術センターは、カシオグループの中でも最先端の環境配慮型事業所であり、企業ではどうやって環境負荷を減らしているか、実際の設備を見て理解して頂きます。又、企業紹介の他、電卓の歴史や分解・組立体験を通じてモノづくりの楽しさを伝えております。



八王子技術センターの設備を見学



電卓の分解・組立体験

チューリップ・大賀ハスの里親

東京都羽村市では「根がらみ前水田」の保全と、稲作後の水田の有効活用を目的として、チューリップの栽培を推進しており、カシオは、2004年よりチューリップの里親になっています。約23,000m²の水田に約40万球が植えられた関東最大級のチューリップ畑には、毎年多くの観光客が訪れています。また、2006年からは弥生時代の遺跡から発掘された古代ハス、大賀ハスの里親としても種の保存・育成に協力しています。



カシオが里親の畑



チューリップ畑全景

エコプロダクツ2011に出展

カシオは、東京ビッグサイトにて毎年開催されている国内最大級の環境展示会エコプロダクツ展に出展しています。2011年12月15～17日、13回目を迎えた同展示会には、700以上の企業・団体が環境配慮型製品やサービスなどを紹介するブースを出展し、18万人以上のお客様が来場しました。

カシオは第1回から出展しており、2011年は「自然との共存」をテーマに、「低炭素社会の実現」と、「生物多様性の保全」への取り組みを紹介しました。

今回のコンセプト【自然、そして、その恵みである貴重な「エネルギー」、「資源」を大切にする事により、持続可能な社会を実現する。】に基づき、カシオグリーンスター商品や、カシオグループのさまざまな環境活動の展示を行いました。

ステージでは来場者参加型のクイズを組み入れ、お笑い芸人の軽妙なトークで、「省エネルギー」と「自然愛護」を身近な事例として実感していただき、展示スペースでは、製品のどの部分が環境配慮されているのかを、印象的なキャッチコピーとスタンプラリー形式のクイズにより分かりやすく紹介しました。例年人気の「電卓組立教室」をまじえ、多くの児童、生徒、学生の皆様にご来場いただきました。

今後も同展示会への出展を通じて、カシオの環境活動を広く発信していくとともに、環境に対する新たなコンセプト、ポリシーを提案していきます。



自然との共存



来場者参加型のステージ



今回は大人向け電卓組立教室も！



地球・自然をイメージした水のオブジェ

CES2012への参加

カシオは、例年ラスベガスで開催される世界最大級の家電見本市「コンシューマーエレクトロニクスショー」に出展しています。2011年度は、2012年1月10～13日に開催され、15万人以上もの来場者が集まる大盛況の中、カシオの革新的新製品をアピールする絶好の機会となりました。

環境展示コーナーでは、「自然との共存」をテーマに、「低炭素社会の実現」と、「生物多様性の保全」への取り組みを、グリーンスター商品（時計/プロジェクター）の展示、パネルを用いて分かりやすく説明しました。

また、プロジェクターコーナーでは、LEDとレーザーを組み合わせたハイブリッド光源を用い、「水銀フリー・省エネ」を実現したデータプロジェクターを、その特徴を活かせる用途であるデジタルサイネージ等と共に展示しました。



自然とその恵みを大切に！



時計：自然エネルギー



データプロジェクター：省エネ・水銀フリー



生物多様性保全と自然愛護

「国際イルカ・クジラ教育リサーチセンター」の活動支援

G-SHOCK / Baby-Gは、1994年に日本で開催された「国際イルカ・クジラ会議」以来、アイサーチ・ジャパン^{※1}とともに日本と世界のイルカ・クジラに関する教育・研究活動をサポートしています。

イルカ・クジラと自然の素晴らしさを多くの人に伝えるため、協賛モデルに「All as one^{※2}（つながりの中で生きる）」メッセージやシンボルマークを施し、アイサーチ・ジャパンの活動を支援しています。

※1：アイサーチ・ジャパン（国際イルカクジラ教育リサーチセンター）。
<http://www.icerc.org/>

※2：すべての自然と命がこの地球上でひとつにつながり、調和して生きていくこと。



ICERC「海の環境学習教室」の活動支援

カシオは、アイサーチ・ジャパンが運営する「海の環境学習教室」を支援しています。

子供から大人まで楽しみながら・見て・触れて・作って学ぶ、イルカ・クジラと海の環境学習を応援しています。人と海とイルカ・クジラの持続可能な共生・共存を求めています。



写真・資料提供：アイサーチ・ジャパン

継続して支援を行っている活動

WWF ジャパン

カシオは、人と自然が調和して生きられる未来をめざして活動するWWF ジャパンの使命と行動原則に賛同し、法人会員としてWWF ジャパンを応援しています。

美しい多摩川フォーラム

経済、環境、教育文化を運動の3本柱に据え、美しい多摩づくりをめざす『美しい多摩川100年プラン』への支援を2011年度より行っています。

種の保存への取り組み ～「乙黒桜」について

「乙黒桜（おとぐろざくら・正式名称：コマツナギ）」は、4月中旬に満開になる遅咲きの山桜で、5～6cmの大きめの白い花が付き、葉も一緒に出ます。

明治から大正期に、現在の山梨県中央市を流れる笛吹川のほとり、乙黒地区の「乙黒の土手」と称されたところに咲いていたことから「乙黒桜」と名づけられ、長く地域住民に親しまれてきました。

しかし昭和7年の笛吹川改修に伴い、この「乙黒桜」も伐採されてしまいます。乙黒地区の田中松彦氏は、この由緒ある「乙黒桜」を復活させようと、僅かに残った子孫の木から接木して苗を育成されました。その活動が実を結び、2002年度に「乙黒桜を育てる会」が発足。玉穂町（現：中央市）教育委員会「生涯学習館」を中心に地域を挙げて、数本残った「乙黒桜」の子孫の桜から、挿し木や接木の方法で繁殖・保存の取り組みが始まりました。

甲府カシオは環境活動の一環として「乙黒桜」の種の保存と工場緑化推進を目的にこの希少種の育成に参加する申し入れを行い、玉穂町（現：中央市）から寄贈を受け、2004年からの3年間で合計30本余りの植樹を行ってきました。どの樹も植樹されてからしっかり根付き、甲府事業所の敷地内で美しく開花し、人々の目を楽しませています。

「乙黒桜」は、カシオと地域をつなぐ象徴的な存在と言えます。身近なところから「種の保存」という今日的課題にいち早く取り組んできた事を誇りに思います。文字どおり、人と事業と生物の利用と共生が花開いています。

2012年度からは、カシオビジネスサービス甲府事業所で管理を行います。



敷地内の乙黒桜